令和６年度　自己評価公表シート

１．　幼稚園の教育目標

（１）身体も心も健康で明るい子供　　（体）つよい子
（２）豊かな心と感性をもった子供　　（徳）すなおでやさしい子
（３）自分で考えて行動できる子供　　（知）かんがえる子

２．　本年度の学校評価の具体的な目標や計画

（１）明るく温かで健康的な教育環境を整え、温かな眼差しによる保育者の見守りによって子供たちが安心して、自信をもって自己を発揮していけるようにする。
　① 四季折々の窓面を工夫し、幼稚園の楽しさを伝える。
　② おもちゃを使いやすく配置し、園児が楽しく仲良く遊べるようにする。
　③ 朝夕の清掃と消毒を徹底し、清潔で健康的な環境を整える。

（２）広い園庭を活かし、のびのびと遊びながら四季折々の草花や木の実や葉、昆虫などに触れ、豊かな心と感性が育まれるようにする。
　① 園庭の遊具には「お休みカード」を活用し、保育者と園児の会話の中で規則を知り、安全に楽しく遊べるようにする。
　② 園庭の草花から色水をつくったり、種を取ったり、昆虫を見つけたりして、自然に触れあって遊べるようにする。
　③ 毎日のお弁当によって喜びと感謝の気持ちを育てると同時に、畑で作物を育て、収穫の喜びと食物への感謝の気持ちを育てる。

（３）小学校就学を見通したカリキュラムにより、季節や行事に合わせて工夫した制作を通して、自分で考えて作ったり、友達と協力して作ったりすることが出来るようにする。
　① 担任教諭と共に、季節や行事に合わせた歌を歌い、制作をし情操を豊かにしていく。
　② 専門の講師による体育あそびによって、楽しく遊びながら個別・学齢に応じた体づくりを図る。
　③ ネイティブの専門講師による英語あそびでは、楽しみながら異文化・異言語に触れる。

（４）年間カリキュラムにある季節に応じた諸行事を実施するにあたり、新しい生活様式を工夫し、学年別で実施するなど保護者の理解・協力も得て、園児の命を守り安全に実施できるようにする。
　① 園外保育では、感染予防を徹底し、安全に実施できる行事を精選する。
　② 運動会では、力いっぱい走ったり、おゆうぎをしたりすることで、体づくりと協調性・頑張る力を伸ばす。

③ おゆうぎ会、ひなまつり会、七夕、豆まき会、誕生日会などの行事では、意味・意義を教えると同時に発達段階に応じた表現力を高め情操教育につなげる。

（5）家庭・地域と連携した、幼児教育の支援を推進する。

①保護者の子育て支援のための預かり保育では、家庭的なくつろいだ雰囲気のなかで、安全に子供たちを見守り過ごす。

②近隣小学校と連携し、小学校就学を見通した保護者支援を実施する。保幼小連絡協議会への参加も積極的に実施する。

③すこやか、療育担当と連携し、保護者承諾のもと、一人一人の園児にあった保育を家庭と協力して進める。

（6）教職員の専門性の向上を図る。

①中野区幼稚園連合会主催の研修会に参加し、その研修内容を全教職員に還元する。

②カリキュラム会議を毎週実施し、保育の内容などを相互に連絡し合い、幼稚園教諭としてのスキルアップにつなげる。

③ 長期休業を活用して、各自研修を行い、その内容を長期休業後に発表し、互いの研修内容を知る機会とする。

３．　評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目		結果	理由
（1）	①	A	保育室の窓面は季節に合わせて子どもたちが製作し園内の壁面は行事に合わせて定期的に更新している。
	②	A	保育室は楽しく遊べるように工夫して配置されている。
	③	A	職員が当番制で清掃消毒も徹底されていて清掃消毒後はチェックリストによって管理されている
（2）	①	A	お休みカードのルールを教え規則を守り安全に遊べるようにしている。
	②	A	前年度同様、これまでの取り組みに加えて、自然委員の教職員や用務担当職員を中心に畑やビオトープで自然に触れる取り組みも行った。畑やプランターでは四季に応じた作物（大根・じゃがいも・さつまいも・なす・トマト等）を育てる活動をして、さらに園児が自分で育てた作物を食べるという食育活動も楽しんだ。
	③	A	前年度同様、これまでの取り組みに加えて、畑で育てた野菜を調理し食べて食育活動を行った。苦手な食べ物も自分で育てた作物はおいしく食べることができて、好き嫌いを克服することができた園児もいた。
（3）	①	A	季節の歌や行事の歌を楽しんでいる。 廃材を利用して一人ひとり創意工夫して製作に取り組んでいる。
	②	A	専門の講師による体育あそびでは楽しく遊びながら学齢に応じた指導し健康な体づくりをしている。
	③	A	ネイティブの専門講師による英語あそびでは発音を聞きとりリズミカルに動いて楽し

			んでいる。
（4）	①	A	行事に合わせて計画的に準備をしている。 感染予防の観点で工夫して楽しい思い出になるようにしている。
	②	A	運動会の準備や練習を通してできたことを喜び自信を持ち達成感を得られている。
	③	A	表現活動は行事を通して意味を知ったりお誕生日会ではそれぞれの誕生児を祝い学年に応じて楽しむ会にしている。
（5）	①	A	子育て支援として降園後の預かり保育は安全な環境を準備している。 家庭的雰囲気で信頼を得て保護者に喜ばれている。
	②	A	保幼小連絡協議会に参加し就学時には小学校と連絡を取り保護者と子どもへの安心に繋げている。
	③	A	特別支援児に対する保育に関して重点的な取り組みを行った。 担任教諭が立案した保育計画の下に、専任の特別支援児担当の教諭を配置してご家庭と連携しながらきめ細やかな保育を行い、特別支援児の抱える個別の問題に配慮した保育を行った。
（7）	①	A	研修会に参加した教員に全教職員に還元できるように報告・発表している。
	②	A	毎週カリキュラム会議で共通の理解を図りスキルアップに繋げている。
	③	A	長期休業中は各自教材準備教材づくりに自主研修を行っている。

４．　令和６年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	令和６年度は年長及び年中の２学年かつ計２クラス編成となったことで、前年度よりも必然的に規模は縮小しつつも、幼稚園における保育活動はこれまでと同じような行事等を行うことができた。それに加え、令和６年度は新たに「木育ワークショップ」を全３回にわたり取り入れたことで、園児が楽しみながら、園児の本来もつ五感の発達に大きく寄与できたと考える。令和７年度も同様に園児の五感の発達に寄与する教育に特に力を入れていきたいと考えている。 令和７年度は休園までの最後の１年となる。最後まで若宮幼稚園らしい教育に取り組んでいきたい。

５．　令和７年度に取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
感染症対策	日常保育・行事等安全に満足いくように進めていく。
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	・技能・知識・判断力 ・健康な心と体・自立心・協同性・道徳性・言葉による伝え合い ・社会生活との関わり・自然との関わり・生命尊重・数量や文字などの関心・思考力の芽生え・豊かな感性と表情

６．　令和６年度学校関係者評価報告書

（学校法人の評議員１名による学校関係者評価の結果）

昨年度に新年少児の募集停止を発表し、令和６年度は年長と年中のみの２学年の体制で始まりましたが、これまでどおりの平穏な保育環境を維持継続しているのみならず、少人数ならではのより充実した保育を実施されていることが何よりも素晴らしいと感じました。

特に、とうきょうすくわくプログラムの活動で「木育ワークショップ」を新たに導入し、外部の方のご協力のもと、園児が普段は触れる機会の少ないかんなくずのプールに入って、木の匂いや手触りを楽しんだり、のこぎりを使って丸太切りをすることで気を付けて道具を扱うことを学んだり、木材に色を塗って好きな形にくっつけたりして、五感を使って楽しんだことをうかがい、どんなときでも若宮幼稚園の教育目標に沿った豊かな心と感性を育む教育を実践していらっしゃるのだと頼もしく感じました。

残念なことに令和７年度をもって休園とのことですが、最後の１年も若宮幼稚園らしい教育に取り組んでいただけたらと思います。